注意！
■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報　第５号　果　樹

発行日　平成２８年　７月２８日
発　行　岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編　集　中央農業改良普及センター　県域普及グループ　（電話　0197-68-4436）
携帯電話用 QR コード
「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「http://i-agri.net/agri/」 携帯電話からは「http://i-agri.net/agri/i/」

◆　りんご、ぶどうともに収穫が早まる可能性あり！収穫時期を見極め、適期に作業を行いましょう。
◆　りんごの果実肥大は順調ですが、県内各地でサビ果、奇形果がみられます。引き続き、見直し摘果を進めてください。
◆　ぶどうは品質向上のため、適切な着果管理を！

りんご

１　生育状況

定点観測結果（表１）による果実肥大（横径）状況を県平均でみると、平年よりやや大きい傾向となっています。なお、県下全般にサビ果、奇形果が見られています。４月中下旬の凍霜害と開花期間の降雨、低温が要因と考えられます。随時、見直し摘果を実施しましょう。

表１　県内の定点観測ほ場における果実肥大（横径）状況（7月21日現在）　（単位：mm）

7月21日時点の生育状況	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
	本年（H28）	前年（H27）	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年（H28）	前年（H27）	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年（H28）	前年（H27）	平年	前年比(%)	平年比(%)
岩手町	61.5	66.5	60.5	92	102	58.3	63.3	60.5	92	96	53.3	59.0	53.6	90	99
盛岡市	67.5	69.8	62.8	97	107	67.4	68.4	62.4	99	108	62.4	64.6	56.1	97	111
紫波町	66.4	65.3	65.2	102	102	63.7	63.7	62.3	100	102	63.7	61.5	58.0	104	110
花巻市	72.9	72.3	64.5	101	113	64.7	67.6	64.9	96	100	57.7	59.8	55.9	96	103
農研センター	69.9	69.5	64.5	101	108	66.0	66.2	62.8	100	105	62.2	63.2	56.4	98	110
北上市	－	－	－	－	－	71.7	72.6	67.2	99	107	65.8	64.0	60.5	103	109
奥州市前沢区	70.9	69.5	66.6	102	106	69.1	67.4	63.8	103	108	61.6	61.7	59.0	100	104
奥州市江刺区	63.5	63.2	60.7	100	105	64.9	65.9	62.1	98	105	55.2	59.0	53.6	94	103
一関市花泉町	68.3	72.6	65.4	94	104	64.5	66.3	63.2	97	102	54.8	58.0	54.2	94	101
一関市大東町	－	－	－	－	－	66.7	71.9	61.8	93	108	62.4	64.0	56.1	98	111
陸前高田市	66.5	71.7	63.8	93	104	67.9	69.8	61.2	97	111	60.1	62.9	55.1	96	109
宮古市	65.3	68.6	60.6	95	108	68.2	68.6	62.0	99	110	66.2	65.3	55.9	101	118
岩泉町	－	－	－	－	－	65.7	66.7	59.0	99	111	63.4	60.0	54.6	106	116
二戸市	－	－	－	－	－	62.7	63.4	60.9	99	103	57.4	62.4	54.5	92	105
県平均（参考）	67.0	68.8	63.3	97	106	65.8	67.4	62.4	98	105	60.3	61.7	55.9	98	108

※　県平均値に農研センターの数値は含まれていない

２　管理作業

（１）摘果の見直し、誘引、徒長枝の整理

仕上げ摘果がほぼ終了し、これから見直し摘果になります。着果の多い部分や病虫害果、傷果などを摘果して行きます。「ふじ」では、生育不良果、つる割れ果が見えてきますので、随時摘果します。

樹体管理では、枝の誘引、徒長枝の間引きなどを行い、樹冠内部の日光や薬剤のとおりを良くします。また、台風などに備えて、支柱との結束の確認、園地の排水対策を行いましょう。

（２）早生種の着色管理

ア　早生種の葉摘み開始時期は、収穫予定の 10～20 日前です。「さんさ」、「つがる」等、赤色早生品種は収穫が早まることが予想されるため、例年より早めに作業できるよう準備します。

イ　果そう葉を中心に、最初は軽く２～３枚程度摘みます。

ウ　陽光面の着色が進んだら、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを行うとともに、適当な強さに葉を摘みます。必要以上の葉摘みは、逆に着色が進まないので避けます。

エ　着色適温は 10～20℃です。**残暑で最低気温が 20℃を超える日が続く場合は、いくら葉を摘んでも着色が進み難くなりますので注意してください。**

（３）落果防止剤の散布

収穫前落果しやすい「つがる」や「きおう」には、落果防止剤を上手に使用して落果を抑えましょう。使用の際は、必ず登録内容を確認してください。特に「きおう」の内部裂果で早めに熟す果実の取り扱いは、農薬安全使用基準に違反しないよう厳重に注意してください。

（４）早生種の収穫（表２参照）

ア　すぐりもぎが基本です。特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」は徹底しましょう。

イ　「きおう」は、ツル浮き（内部裂果）が発生しやすく、裂果したものは正常果よりも早く熟しますので、特に収穫前半はツル浮き果が混入しないよう注意してください。８月に入って降水量が多いとツル浮きが発生しやすいので、特に注意が必要です。

ウ　「つがる」は、収穫後の果肉の軟化が早く、収穫が遅れると果面に油上がりが発生しやすいので、地色に注意して遅取りを避け、収穫後はできるだけ早めに予冷しましょう。

エ　落果防止剤にストッポール液剤を散布した場合は、散布日から７日以上空けて収穫します。

表2　早生種の収穫期の目安

品種	満開日 起算日数	満開日※	満開日起算 による収穫予想日	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数	カラーチャート 指数※
さんさ	115日	－	－	13.5～14	13～14	2～3	2～3
つがる	115～125日	5月5日	8/28～9/7	13～14	12～14	3～3.5	2～3
きおう	115～125日	5月7日	8/30～9/9	13～14	13以上	2～3	2.5～3.5

※:満開日は、つがるが定点観測地点の平均値、きおうは農業研究センター観測日
※:さんさ、つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

（５）「紅いわて」の収穫前管理について

「紅いわて」は着色の非常に良好な品種であるため、軽い葉摘み作業でも十分に着色します。陽光面が着色した時点で果面に付着している葉を取り除き、枝かげをつくらないよう軽く玉まわしを行いましょう。「紅いわて」はつるが短い傾向にあるため、玉まわし作業は慎重に実施しましょう。

（６）夏季せん定（わい性樹）

ア　樹勢の強い樹を対象に、８月下旬～９月上旬にかけて行います。

イ　側枝の上面から発生している 30cm 以上の直上枝を間引くほか、30cm 以下の新梢でも枝量と混み具合をみて日光、薬剤が通る程度に適宜間引きます。

ウ　なお、過大な夏季せん定は樹勢を弱めるため、紋羽病の発病誘因となることがありますので、発病の恐れのあるところでの夏季せん定は最小限にとどめてください。

（７）日焼け果

ここ数年、早生種の収穫前に気温が高く推移したことにより日焼け果が発生しています。根本的な対策はありませんが、寒冷紗被覆、潅水等を実施し、着果位置が樹の南～西側にある果実、枝の上方にあって固定されている果実は、極力、取り除くことで軽減できると考えられます。

３　病害虫防除

雨天の日が多い天候が続いています。斑点落葉病、褐斑病、果実腐敗性の病害（輪紋病、炭そ病等）等を防ぐため、散布間隔が空きすぎないようにし、ハダニ類等の発生に注意しましょう。

早生品種の収穫が近づいています。**今年は開花が早く収穫時期が早まる可能性があるので、８月の薬剤散布は、安全使用基準の収穫前日数をよく確認**して、間違いのないよう注意しましょう。除草剤についても同様です。

ぶどう

１　生育状況

紫波町赤沢の定点調査結果（表３）における「キャンベルアーリー」の生育ですが、結実率は概ね平年並で、７月 15 日時点の新梢長及び節数は、発芽、展葉は早まったため平年より早く生育が進んでいます。なお、房長、果径ともに全般的に平年より大きめとなっています。高温や土壌水分不足による、果実の日焼けや縮果、葉焼けなどの発生に注意しましょう。

表3　ぶどう（キャンベルアーリー）の生育状況　（紫波町赤沢）

調査年次	結実率（%）	7月15日調査時点			
		新梢長（cm）	節数（葉数）	房長（cm）	果径（mm）
本年(H28)	36.7	152.6	16.3	15.8	17.3
平年差・比	−1.5	122%	102%	108%	109%
前年差・比	−2.0	133%	108%	95%	110%
本年(H27)	38.7	114.5	15.1	16.7	15.7
平年（平均）値	38.2	124.9	16.0	14.6	15.8

※平年値のうち、結実率は、平成9年から平成27年の平均値、他の数値は、昭和49年から平成27年の平均値。

２　管理の要点

（１）摘粒の見直し

果房の形を整え、品質を向上するため、着粒の多い密着房、裂果粒、病虫害果粒を中心に摘粒を実施します。１房当たり粒数の目安は、「キャンベルアーリー」、「ナイアガラ」が 70 粒程度、「サニールージュ」が 50 粒程度、「シャインマスカット」が 40～50 粒、「紅伊豆」が 30～40 粒、「安芸クイーン」が 25～30 粒となりますので、見直しを行いましょう。

（２）摘　房

果実の糖度や着色など品質を向上し、樹体の養分の消耗を防ぎ、翌年の花芽の充実を良くするため、適正着房数を目標に摘房を実施します（表４参照）。

「キャンベルアーリー」で、樹勢が弱い場合は、１房当たりに必要な葉数（概ね 15～24 枚で１房、25 枚以上で２房）に応じて着房数を制限して下さい。

「紅伊豆」などの大粒種で、樹勢をコントロールする目的で１新梢２房としている場合でも、着色や糖度の上昇の遅れ、樹体の凍寒害発生を防ぐために、着色開始を目途に最終房数としていきます。

「サニールージュ」は大粒種に分類されますが、粒径は中粒種に近いため着房数、目標収量とも「紅伊豆」などの大粒種と「キャンベルアーリー」などの中粒種の中間程度が適当と考えられます。

表4　ぶどうの収量構成要素

品種	新梢数（本/坪）	着房数		目標収量（kg/10a）
		（房/坪）	（房/新梢）	
キャンベルアーリー	20	27～30	1.35～1.5	2,200
紅伊豆等	15	10～12	0.67～0.8	1,200
サニールージュ(参考)	19	16.2	0.85	1,700

（３）新梢管理

棚面を明るくして果房の着色を向上し、樹勢をコントロールして養分の浪費を防ぐため、勢力の強い新梢を中心に間引きや摘心を行います。硬核期以降（７月下旬以降）に実施しますが、(1)赤色系品種、(2)紫黒色系品種、(3)白色系品種の順に棚面を明るくするようにします。

短梢栽培では、葉数確保のため副梢についても基部から２～３枚の葉を残して摘心していきます。しかし、混み合っている場合は適宜間引いてください。

（４）収　穫

今年の収穫は若干、早まることが予想されます。着色、糖度などの食味に留意しながら、表５の品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熟になると商品価値が落ちるので、適期収穫に努めましょう。収穫に当たっては、農薬安全使用基準の収穫前日数には十分に注意してください。

収穫は、果実温度が低い早朝から午前中に行います。降雨後は、糖度も下がり、輸送中の腐敗も多くなるので避けるようにしましょう。

選果・調整は、果粉を落とさないように穂柄を持ち、未熟果、腐敗果、裂果等を除き、出荷形態に即して房形を整え出荷しましょう。

表5　品種別収穫時期の目安

品種	基準糖度	房の状態	備考
デラウエア	18%以上	着色完了2～3日後	酸抜けが遅い、食味重視
サニールージュ	18%	房全体が紫赤色	脱粒少ない
キャンベルアーリー	14%以上	房全体が黒紫色	
紅伊豆	18%以上	房全体が鮮紅色	過熟果は軟化や脱粒が多い
シャインマスカット	18%	房全体が黄緑色	

（５）裂果対策

収穫直前の急激な土壌水分変化は、裂果の発生を助長します。土壌が乾燥し過ぎないよう、こまめな雑草の刈り取り、樹冠下に敷きワラ等でマルチするなどの対策を実施します。また、降雨があった場合には、過剰な水分を早期に排水できるよう、根域の周辺にビニール等を敷く、溝掘り（明渠）するなどの対策を実施しましょう。

「紅伊豆」などの雨よけハウス栽培では、温度が高くなりやすいハウス中央部などで果実の着色不良や果肉の軟化が、裂果や脱粒を引き起こすことがあります。気温が高くなると予想される日は、サイドのビニールを巻き上げる、換気扇を利用する等温度が上がりすぎないよう努めます。

３　病害虫防除

病害虫の発生状況に応じて防除を実施しますが、収穫が間近になってきております。農薬の使用基準（収穫前日数、散布濃度、使用回数）に十分留意してください。

薬剤によっては、果粉の溶脱、果面の汚れなど品質を損ねることがありますので、薬剤を選択する際は注意してください。

次号は８月２５日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

■日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
■帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
■暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けることと。

６月１日～８月３１日は
農薬危害防止運動期間です

- **近隣住民・周辺環境に配慮しましょう**
- **農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう**
- **農薬の保管・管理は適切にしましょう**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。